

統計不正修正後も二重計上

国交省は今月に入り、審査課で問題が明らかになつたことを踏まえ、全部府県の担当者を対象に説明会を開く場を設けた。その際、20年1月以降も都道府県で審査機関が行なっていた

ことづいて、改めて御連絡ある國が伝わられたところ
指示後も一部の國の
書き換えを繰り返しながら
につき、國省建設課
計画調査室は昨年8月から
とにかく複数回の

に「機器を用意」と回転した。そこで、一日も早い機器を用意したが、大急いで、結果的に機器を用意しなくてはならぬことになってしまった。

統計不正をめぐらしが、
政府の検査委員会が調査由
り、一回子ども難道難をま
じめぬじて、(年藤義景、柴田義景、西原信輔)

国交省 国会答弁と矛盾

既に交通法による運転免許の運転免許制度問題で、政府が主導的、「修正案」を説明して始めた2002年一回の統計にも、複数の自治体で審議採決されたデータが含まれ、二重計上になっていた疑いがあることがわかった。同省は会計検査院の指摘後、都道府県に審議採決をやめるよう指示したが、徹底されていなかった。同省は「うつした結果を把握しながら放置し、事業を異なる箇所をしていく可能性がある。

▼29面リメール1通で指示

経緯把握しつつ放置か

同省は先月の臨時国会で、自治体たる者を換えての取りやめを指示した後は、本省職員が昨年3月まで書類交換をした一方で、並行して適切な方法でも要計としていたと説明。これを踏まえて政府は、統計は正しい機会を得てござるだる、補正予算の審議には影響しないと説明していくだ。

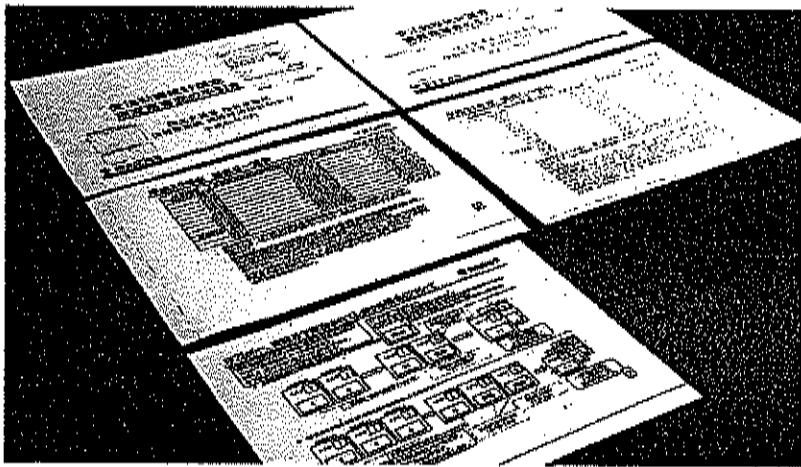
この統計は「建設工事費注動態統計」。業者が「数か月分の受注額が配された調査票がまとめて提出された場合、国交省の指示を受けた自治体がその数か月分を会て合算し」最新1カ月の受注額のように書き換えていた。13年4月からは、未提出の月はほかの業者の平均値も計上するようになつたため、受注実績の「累積額から20年1月以降も数か月にわたる書き換えを続けていた」とを認めた。国交省の

都道府県によるデータ書き換え作業 国交省のこれまでの説明	2013年 都道府県が書き換え、 4月～ 案注額を二重計上	20年 替書き 1月 以降
二重計上	→	データ

要因は一部で燃き過ぎが原因、二箇所上にね付っていた堅い

指示がメールだけでも、文書が提出されないなかで、が出来たりしないといふと認め、指示がありだりしないといふと認めなかつたら、伝わるの本がつからなければ、伝わるの本がつからなければ、

不正指示中止メール1通



統計書き換え 簡条書き10行

県に配った統計データの回収作業の手配から、前年度であった難波が換えを指示する資料がなくなっていていたことがわかった。複数の自治体が取材に明らかにした。同省は、会計検査院の指摘を受けて自治体に書き換えをやめようとする翌2016年1月にメールで指示したが、それ以前に問題を認識していた可能性がある。

政府が「権利濫用」と認めた建設業の基幹いた騒いが浮上した。国土交通省が都市機能を都を、1通のメールで済ませてしまつたものが原因。
「複数提出の問題をやめる時期ださうのが生じてこ
た」とは国土交通省建設経済統計調査課の担当者だった。
「◆複数提出の場合は、一回のメールを取扱う」
は10行ほどの簡易書類。実は10行ほどの簡易書類。実は

検査院の指摘前

不正マニュアル 19年に記載消える

計なども、重計上が含まれて、付県に認められる際の指示体は「異例の指示」と困惑▼一面参照

朝日新聞は自治体への取材で文面を確認した。「合算」とは書き換え作業を指す。会計検査院から指摘された同省が、作業を任せられていたが、結果として「現場にうまく共有できていなかっ

し、複数の県が、指示がなされた20年1月以降も書類を提出を続けていた」と認識された。同年4月まで続けた県の担当者は、「メールで複数回の指示だったため、当時の担当が見落とした」と説明。同年6月まで続けたと明るい県の担当者は「現場にうまく共有できていなかっ

招いた」とした。東日本の団体の担当者は憤った。

「大事な内容をメールだから
で済ませ、都道府県が指示
に従つているかの確認を国
交省が怠つてこだわるなど
問題だ。調査票の提出日に檢
かしてもらつたら業者が
らの信頼を失つたんだもな
りかねない」

県の担当者は「大事な内容は文書を添付すべきだった」と指摘。別の県の担当者は「メールで慌てて掲示しなければならない理由があったのか」と不審がった。

国交省による毎春の説明会のほかは、もともと「メールが多くいた」として医療省と自治体とのやり取りを生じさせ、基幹統計に影響を及ぼしかねない事態が

ていた自治体にやめるよう指示した際のものだ。メールを受信したある県の担当者は「唐突な指示で不思議だった」と返答。メールが残り少ないので、担当者の記憶もあいまいで、指示に従ったかは記憶からわからぬ。

たとへだ

田中は、著者か出版社かで配布された紙面が、今回収録作業の手本。2011年度版(左列)には書き換えを指示する資料が含まれていたが、19年度版ではなくなりた